

日本の就学前の4～6歳の子どもにおける Strengths and Difficulties Questionnaire の信頼性

土井由利子¹、石原金由²、内山真³

¹ 国立保健医療科学院疫学調査研究分野、² ノートルダム清心女子大学人間生活学部児童学科、³ 日本大学医学部精神医学系

背景： Strengths and Difficulties Questionnaire (SDQ) は、広く用いられている簡便な行動スクリーニングテストである。本研究の目的は、日本の就学前の子どもにおける3～4歳児用SDQ (SDQ 3-4) の信頼性 (内部的-一貫性およびテスト-再テスト) について検討を行うことであった。

方法： 和光市の幼稚園または保育所に通う就学前の4歳から6歳の子ども754人の保護者に対し、2012年6月から7月にかけて2度 (Time 1 と Time 2)、SDQ 3-4を用いた調査を実施した。内部的-一貫性についてはクローンバックの α 係数、テスト-再テストについては両テスト間の相関係数を用いて検討した。

結果： Time 1 で回答した393人の保護者 (回答率52.1%) のうち解析に用いた383人について、クローンバックの α 係数は、Total Difficulties スコアで0.74、向社会性サブスケールスコアで0.70であった。しかし、情緒、行為、多動・不注意のサブスケールスコアは0.61～0.66、仲間関係では0.45であった。383人のうち、211人の保護者はTime 1 と Time 2 の両方に回答した (55.1%)。Time 1 と Time 2 の両テスト間の相関係数は、仲間関係 (0.58) を除き、Total Difficulties スコアおよび他のサブスケールスコアでは0.73～0.82であった。

結論： 以上より、日本の就学前の4歳から6歳の子どもにおいて、SDQ 3-4は、Total Difficulties スコアおよび向社会性、情緒、行為、多動・不注意の各サブスケールスコアで、信頼性のある尺度であることが示唆された。

キーワード

Strengths and Difficulties Questionnaire、SDQ、信頼性、就学前のこども (就学前児童)、日本